

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	野の花独自の理念を作り、その中に地域の方達と関わりながらゆっくと楽しく生活を送り認知症の進行を緩やかにすることを旨とするように掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や室内に理念を表示し、また職員会で確認しながら職員がいつも念頭において介護に携われるように取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	訪問した人達が目に触れるところに理念を表示し、家族や地域の人に理解してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの回りを歩いている人と気軽に挨拶したり、会話したりして親しく交流している。「カラオケが聞こえた」と気軽にホームへ入って来られる人もいます。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており地域の避難訓練や敬老会の行事に参加したり、子供会や児童館から児童生徒が慰問し一緒にゲームをしたり贈り物を頂いたり楽しい交流をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者が将来認知症になっても近くにグループホームができて安心と見学に来られることがある。時々訪問され一緒にカラオケしたり夕食を食べてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員でケアプランの確認をして介護記録の書き方を研究したり、前回の自己評価を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームでの活動や近況の報告や意見交換も行っており、要望や意見があるときはすばやく対応できるように努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターが主催する研修会に参加し、意見交換や近況報告等を行ったり、助言をいただき介護サービスの向上に生かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し理解を深めている。今現在必要な人はいないが利用する人があれば更に理解を深め対応していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や通常の介護の中で虐待の知識を深め、虐待を防止するための心構えや配慮を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は質問や不安に思っていることについては納得されるように丁寧に助言したり答えるように心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな小さなことでも話を伺うようにしており、家族や利用者が喜んで頂けるように対処、対応し介護に反映するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や担当者会議等で訪問してもらったときや電話で健康状態や生活状態の報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記と同じ	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と同じ介護に携わることで密に接しているため職員の声を直に聞くことができ、提案や意見等には即時対応することができる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員に勤務の時間帯の不満がでないように調整に努め、家族の要望の時間帯に合わせている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	開設して2年目に入るが家庭の事情によるパート一人が休職中で職員の入れ変わりがなく馴染みの職員が介護に当たれるように対応している。	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	特に本人に関わりのある内容の研修には指名して参加してもらっている。研修のパンフレットを掲示して、希望者は自主的に参加できるようにしている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	近隣の同業者とお互いに見学・訪問し、また、相談や話し合いを行い交流を深めている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	勤務態勢や勤務時間など職員が働きやすいような環境作りを心がけている。ストレスを感じたらすぐに話せる雰囲気をつくり何でも聞いてあげることによってストレス軽減、解消に繋がるように取り組んでいる。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員個々の特質を把握し、各々の得意とする作業を任せて意欲を向上できる環境で働けるように努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員一同、入居者とコミュニケーションを密にとり信頼関係を保ち、何でも気軽に発言できる機会を作り、聴く機会を多く作るように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族に日常の生活の様子を知ってもらい、不安に思っていることや困っていることなどをよく聴き納得、安心してもらえるように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に何が必要かしばらく様子を見させて頂き最も適しているサービスを提供できるように職員全員で見極めるように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活の様子を家族に伺いなるべく変わらないような環境や馴染める生活ができるように対応している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と同じように行動したり話をする中で共に楽しみ笑い、過ごしている。なにげなく出た本人の言葉で人生の先輩として教えられること学ぶことがある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者は家族が面会に来てくれることを楽しみにしている。滞るときは電話で要請して協力してもらっている。一緒に歌を歌ってもらったり、職員が会話の中に入って家族と喜怒哀楽を共にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症のため今まで家族の絆が壊れそうな関係もグループホームに入居することによって時々の面会でより良い関係に修復することができたと喜ばれている。安心してもらうことで心のゆとりができたのだと思う。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた家族や友人等に、楽しく過ごせる環境を提供しまた足を運んでもらえるように歓迎している。地域の行事には積極的に参加し、馴染みの人にふれ合う機会を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	音楽体操の中でみんなで手をつなぎ合い楽しく笑顔で毎日体操したり、全員で風船バレーで励まし合ったり、みんなでカラオケで歌って楽しむ環境を作っている。食事は全員そろって和やかな雰囲気の中で食後の話も弾むように配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係が続けられるように近況を電話等で尋ねたり、手紙をもらったりと交流を維持している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅で以前使っていた馴染みの家具等を使用したり、個別の生活リズムに合わせた支援を行っている。また家族の意向を元に自由な生活ができるように配慮している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴、職歴、大切な思い出や出来事を職員全員が把握、共有しながら日々の会話の中に織り込み楽しく暮らしていけるように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族からの情報、かかりつけ医師からの情報を元に看護師や介護職員が総合的に判断し把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族等の意見や情報を収集し、アセスメントを元に、利用者主体の暮らしやすい目標を立て介護計画を作成している。日々の暮らしのなかでより良いケアを発見していき更に暮らしやすいように支援している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行い達成度を見極めた上で計画の見直しを行い、状態の変化があったときは家族にも報告してその都度対処できるような介護計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に添って利用者一人一人の生活の様子を個別に記録し、全職員が目を通して情報を共有して介護の実践に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人一人の生活環境等が違うため家族の要望や状況を伺いながらその本人に合った支援ができるように対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの慰問を快く受け入れたり、近くの派出所に徘徊等があったときの捜索の協力を依頼したり、消防署の訪問を快く受け入れたり、学校や児童館から児童生徒の訪問も歓迎している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や状況を確認した上で適切と思われる施設やサービスがあれば電話等で尋ねたり、見学に行き行って相応しいサービスが受けられるか確認して家族等に報告し進めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの主催する会合に積極的に参加して、情報を得ながら介護に反映できるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、検査を行いそれぞれ自らの不調を訴えやすいような友好的な関係を築き信頼関係を持って医療を受けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じては内科の主治医より精神科へ紹介してもらい、主治医と専門医の連携による治療に当たれるような体制を作っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を数名配置し、日常的な健康管理と緊急時の速やかな対処を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には親しかった他の利用者で見舞いに行つて励ましを行ったり、家族や医療関係者と情報を交換することで退院後の医療的処置やリハビリ等に備えるようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えるに当たっては家族の意向を尊重した援助が行えるように、家族、医師、看護師、介護職員を交えてカンファレンスを重ねる事で状態を把握し、常に医療と連携を保ちながら速やかに行動できるように整えている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者や家族が終末期をどこで迎えることを一番に望んでいるかを確認し、主治医を中心に話し合いを行っている。「できること・できないこと」を見極めるために家族に病状を理解してもらい急激な変化にも動揺がないよう日々情報を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	何度も家族との意見交換を行い本人にとって「何が一番幸せか、どこが一番居心地がいいのか」話し合っている。本人や家族の意向を十分聞いたうえで現在の状況等を報告し納得してもらうように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人一人の人格を尊重し、人格やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行わないように配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の好きなように行動してもらったり、何かしたいことはないか話をきいたり無理強いはしないように配慮している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分でゆっくり過ごされる方や好きなことをされる方は好きなように過ごしてもらうが、何もなくぼんやりされている方にはレクリエーションや体操等に参加するように誘っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近くに美容室がありお連れすることや家族が染めてくれたりしたが、無料で切ってくれる職員のカットを楽しみにされることが多い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚があるかたはお金を所持され、自分でしっかり保管でき買い物ができる。金銭感覚がない方でも一緒に買い物に行き買うことの楽しさを味わってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の穏やかな日は近くの公園に出かけ気分転換をしている。行きたがらない人は無理強いせずホームでゆっくりとくつろいで過ごされる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	博物館やデパート、季節季節の花見、外食など自動車に乗って遠出している。行きたがらない人は無理強いはしないが多くのかたは楽しみにされている。また家族が外出の機会を作ってくれることも本人は大変喜ばれる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話ができるように対応してる。また字が書ける方は便せん等を用意し手紙のやり取りができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関の入り口に花を飾り明るくし、訪問を歓迎できるような環境を作っている。家族、友人等の訪問を入居者は大変喜ばれるため職員も歓迎して迎えるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で時折身体拘束について話し合いを行い、職員が認識できるようにしている。職員全員が理解し、言葉使い等にも気をつけ優しいケアを心がけ身体拘束がない職場に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時や電話にて現在の身体の状況や医師の情報、検査結果等を報告している。現在考えられるリスクについては家族との話し合いの上で本人が安全で快適に過ごせる最善の策が取れるように配慮している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや言動の変化、心身における異常を速やかに発見し、職員全員が理解し対処できるように情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から全職員に薬の効力や副作用、用法、用量等の情報を報告し、利用者の症状の理解と異常の見極めを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の確認を行っていて、水分の摂取、野菜を多く取り入れた献立の工夫、毎日の体操や散歩による運動等で自然排便に努めている。下剤服用にあたっては個別の量と種類を把握し、内服コントロールを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は全員が口腔ケアを行っている。自立できていない利用者には必ず職員が付き添いチェックするようにしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量に関しては本人が食べきれぬ量をチェックし、本人に負担にならず摂取できる量を確保している。水分は食事やおやつ時に進めていて、夏場の発汗が多い時期は各自ペットボトルを使用し水分量をチェックできるように対応している。またポータブルトイレを夜間は使用し尿量の変化にも気をつけ脱水を起こさないように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	トイレの毎日の消毒と清掃、手洗い励行と使用物品の消毒、汚物等の消毒など日々感染に注意している。インフルエンザの予防注射を利用者、職員全員が行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮な物を摂取したいのでなるべく毎日買い物に行っている。外国産は使用せず国産の物を買うように努めている。食器は食洗機を使用し、まな板など調理器具は熱湯消毒や陽に当てるようにしている。ふきんは漂白剤で殺菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりは季節の花を植栽し、明るい雰囲気を作り気持ちよく出入りできるように工夫した。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには季節の花を飾ったり、目隠しや夏の日差しを防ぐためにすだれをかけたたり、ホールのガラス戸は紫外線や日差しを防ぐフィルムを貼って居心地の良い生活ができるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを消して静かな雰囲気を作ると気の合った者同士でおしゃべりのグループができ会話が弾んでいてほほえましい場面を見ることができ、これがグループホームの良さだなと感じることがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真を置いたり、テレビ、ラジオ、こた つ、椅子、仏壇など使い慣れた物や生活に必要な 物など居心地よく過ごせるように家族が用意して くれている部屋もある。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>朝は空気の入れ換えを職員が行ったり、寒暖に配 慮し室内の温度調節に気を配っている。建物が匂 いや空気の循環を行える設備を導入して生活 しやすい環境である。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>室内全部がバリアフリーで廊下やトイレには手す りが設置してあり、それをつたわって行き来し、 なるべく車椅子を使用しないケアを行っている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>入居当初は何の部屋か分かりづらいため各部屋に 表示をして混乱を防いでいたが住み慣れて来られ ると間違ふことなく暮らせるようになってきた。 テーブルはどこでも自由に座れるようにしている が食事のときは自分の湯飲みで分かるように自分 の湯飲み、箸等は使い慣れた物を持ってきても らってる。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダから近所の犬が散歩しているのを眺めたり、庭の作物の成長を眺められるように配慮している。夏はすいか秋はかぼちゃの実が大きく育つのを楽しみに眺められていた。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

身体の筋力低下の予防と気分転換のため天候の良い日は近隣の公園へ歩行訓練を兼ね散歩を行っています。暑い夏や寒い冬また雨天や風の強い日は室内で約40分位のテレビ体操で運動を行います。

最新型のカラオケ機器を導入し野の花のテーマソングを初めに歌い昔懐かしい歌、童謡、唱歌、流行歌など全員が楽しんで参加しています。

日中はなるべく起きていてもらえるようにみんなで楽しめるレクリエーションを取り入れトランプやいろはかるた、風船バレーを行ったり、生け花、折り紙、計算ドリルや書写等の作業療法を行っています。また本人にできる範囲内で可能な家事手伝いをしてもらい自分も役に立っているという意識を持って生活されています。

ホールは広過ぎず家庭的な雰囲気があるため落ち着いて生活できます。また小じんまりとしているため職員の目も行き届き密な交流を築くことができます。